

スマートシティの実現に向けたニーズ提案書

様式2

提出年月日： 令和元 年 12 月 5 日

地方公共団体名： 石川県加賀市

○提案内容

(1) 実現したい都市のビジョン

加賀市は、石川県の南西端に位置し、越前加賀海岸国定公園に指定されている海岸線と、加賀市・小松市・福井県勝山市の境界にある大日山に源を発する大聖寺川・動橋川が日本海にそそぐ、自然に恵まれた地域である。

市内には、市町合併の経緯による「山中」「山代」「片山津」「大聖寺」「橋立」「動橋」「作見」の7つの地区が存在し、それぞれにコミュニティを育んできた「多核分散型」の都市構造である。また、「山中温泉」「山代温泉」「片山津温泉」の、個性豊かな3つの温泉地を有するとともに、伝統工芸「九谷焼」や日本一の漆器生産額を誇る「山中漆器」、文化庁の伝統的建造物群保存地区指定と、日本遺産に登録された「北前船」の船主集落など、伝統・文化が息づく観光都市でもある。

本市の人口は、昭和60(1985)年の80,877人をピークに平成31年1月には67,207人となっており、全国の多くの自治体と同様に人口減少が進んでいる。人口減少・少子高齢化が進むことで、まちに若者が減り、商店街は活気を失い、地域コミュニティを維持することが難しくなるなど、新たな地域課題が発生してきている。

そのような中、IoT、AI、ロボット、ビッグデータといった社会の在り方を変えるような先端技術は予想を超えるスピードで進展しており、多種多様で複雑化した地域課題がこれらの先端技術によって解決されていく社会は、近い将来に実現するとされている。

本市においても、これらの先端技術の活用に向け、IoTの実証実験や地場企業への導入支援、ブロックチェーンの活用、MaaSの推進、RPAの導入、AIやドローン・アバターの活用に向けた取組みを進めてきた。

本市におけるスマートシティでは、本市特有の多核分散型の都市構造による非効率、人口減少・少子高齢化、北陸という降雪地帯による問題など様々な地域課題に対して、先端技術を活用した解決を図ることで、市民がこれまで以上に便利で安心して暮らすことができ、創造性豊かで活力に溢れた持続可能な都市を目指す。

(2) 新技術の導入により解決したい都市の課題

※課題については、別紙の(ア)～(シ)の課題分野への対応を記載ください(複数ある場合は、課題ごとに対応を記載ください)

解決する課題のイメージ	課題の分類
<p>1. 移動・交通分野</p> <p>本市は、多核分散型の都市構造であるが、それぞれの拠点では生活に関するすべてを賅うことが難しく、通院や買い物等の移動手段として地域公共交通が重要な役割を担っている。</p> <p>市内の地域公共交通は、幹線道路を「路線バス」が、市内全域をセミオンデマンドの「乗合いタクシー」が運行している。「路線バス」については、利用者の減少から便数の減少傾向にあり、運行事業者からは運転手不足を理由として減便を求められている。また、「乗合いタクシー」により、本市の交通空白地帯は無い状況になっているが、市内全域を運行するため、運行時間が長く、便数が少ないなど、利便性が低い状況にある。</p> <p>また、本市は石川県全体の他市町村に比べて14歳以下の年少人口の割合が低く、65歳以上の老年人口の割合が高くなっており、高齢化社会が進行している。これまで、マイカーで移動していた方が高齢化することで、高齢者の足の確保や、高齢者ドライバー問題の対策などが急務となっており、過度のマイカー依存型社会からの脱却が課題となっている。</p>	(ア) 交通・モビリティ
<p>2. 医療・介護分野</p> <p>高齢化が今後更に進むことで、医療や介護分野の需要が、益々、高まることが想定される一方で、生産年齢(15歳以上65歳未満)の人口も減少しており、医療・介護分野における従事者不足が懸念されている。</p> <p>医療分野における医師や看護師については、命を預かる仕事ということや、休日・夜間を問わず従事する必要があるなど、「きつい仕事」というイメージが強く、従事者不足につながる原因と考えられる。また、介護分野においては、市内の介護施設は充足しているが、介護士の仕事は、給料が安く「きつい仕事」というイメージが強く、従事者が不足している。</p> <p>このように、医療・介護分野における従事者不足が進むことで、サービスの質の低下も懸念されている。</p>	(カ) 健康・医療
<p>3. 防災分野</p> <p>本市は北陸特有の降雪地帯であり、冬になると多くの雪が降る。雪が積もると、雪かきをしなければ家から出ることができず、また、屋根雪下ろしも必要となり、高齢者などには特に大きな負担となっている。平成30年2月に福井県境で起きた豪雪災害では、国道8号線の福井県坂井市から加賀市までの区間10kmにおいて1,500台もの車が立ち往生した。山中・山代・片山津の3つの温泉を有し、年間190万人の観光入込客数がある観光地であり、観光客は雪道になれていないことから、安全に歩行や散策できるような対策も必要である。</p>	(ウ) 防災

(3) 具体的に導入したい技術(既に想定しているものがある場合)

1. 移動・交通分野

過度のマイカー依存型社会からの脱却に向け、MaaSの実現や自動運転車両の導入など。

2. 医療・介護分野

医療・介護従事者不足を補うロボットの導入や、AI・アバターを活用した遠隔診療など。

3. 防災分野

AIの活用や、データ分析・予測技術による効率的な除雪など。

(4) 解決の方向性(イメージでも可)

1. 移動・交通分野

フルデマンドによる乗合タクシーの利便性向上や、路線バス、JR、乗合タクシーがつながったMaaSの実現により、利便性高く、いつでもどこでも目的地に行くことができる。また、路線バスへの自動運転技術の導入により、運転手不足による路線や便数の減少に対応していく。

2. 医療・介護分野

医療・介護用ロボットやAI・IoTを活用した健康状態の把握や見守り支援を行うことで、医療・介護従事者の不足を補うとともに、病気の早期発見につなげる予防医学を進める。また、アバターによる遠隔診療やAI診断等により、いつでもどこでも高い医療を受けることができ、いつまでも元気で過ごせる町を目指す。

3 防災分野

全ての除雪車にGPS端末を取り付けることで稼働データを蓄積し、住民からの除雪の進捗に係る問い合わせも含めて、これらをAIで分析させることにより、合理的な除雪車の配置や除雪路線の順序を明らかにし、効率的に除雪を行う。除雪が必要となった時は、自動運転技術による自動除雪機の運行を行い、安全で安心な交通網の確保を行う。

(5) その他

先端技術を活用し、便利に安心して暮らせる持続可能な都市「スマートシティ」の実現に向けて、地域が抱えるさまざまな課題を民・官が共有し、その解決に向け、団体の垣根を越えてともに取組む「加賀市スマートシティ推進官民連携協議会」を立ち上げた。

今後は、市がこれまでに連携協定等で取り組んできたIoT、アバター、ドローン等の先端技術を社会に実装した「スマートシティ」の構築を進めるに際し、これら先端技術の活用方法や実施効果等を総合的に検討して定める「加賀市スマートシティ構想」を策定する。

また、官民が保有するデータの活用により、安全・安心・快適な社会を実現するとして「官民データ活用推進基本法」に基づき、加賀市における「スマートシティ」をより効果的に推進していくため、官民データ活用の目的、基本方針等を定める「加賀市官民データ活用推進計画」を策定する。

※先行してシステム導入を行いたい地域や、既に構想中、実施中のプロジェクトがある場合は、(5)にご記入ください。

○部局名・担当者・連絡先(電話及びメール)

部局名	担当者	連絡先(電話)	連絡先(メール)
政策戦略部政策推進課	山本 昌幸	0761-72-7830	seisakukakari@city.kaga.lg.jp